

聴く

新潟いのちの電話だより

2019.9

No.142



相談電話

(025) 288-4343

上越(025) 522-4343

長岡(0258) 39-4343

新発田(0254) 20-4343

村上(0254) 53-4343

インターネット相談

<https://www.inochinodenwa.org/>

パン屋の店先から

野上信子

焼きたてのパンは今日もいい表情をしています。中でもアンパンは惚れ惚れするほどきれいで、表面にキズをつけないよう慎重に並べます。忙しいアラーム音とともにアンパン、ベーグル、クロワッサン、カレーパン、くるみパンが次々と焼きあがり、朝9時、野上製パン店の開店です。

昨年10月、新潟市白山駅前に息子がパン屋を開業しました。一人で作って一人で販売する、15坪ほどの小さな店ですが、彼の構想は開店初日でたちまちそうはいかない状況に陥ってしまいました。ありがたいことにお客様の行列ができたのです。「俺一人ではムリだ」と家族で一番ヒマな私が狙われ、以来毎日店に立つ羽目になってしまいました。

息子は大学を卒業後、一般企業に就職しましたが、突然手に職をつけたいと言い出して飛び込んだ世界がパン作りでした。新潟、金沢で修業しておりましたが、2013年12月、31歳でがんの告知を受けてしまいました。私は出張先の青森で電話をもらいました。それまで半信半疑であったことが現実となり、私より先に逝ってしまうのだろうか、まだ子どもが小さいのに嫁と孫はどうするのか、激しく動揺しました。

勤務先の金沢から、息子だけ新潟に戻り緊急入院をして即手術をしました。患部は鼻の右半分と頬の一部で、その部分をそっくり取り出さなければならず、10万人に一人という新潟がんセンターでも前例のない希少がん「横紋筋肉腫」でした。3年間の闘病生活で8回の手術と抗がん剤、放射線治療をしました。

腫瘍切除手術の回復を待って抗がん剤投与を13回の予定で始めましたが、治療が進むにつれだんだん体への負担が大きくなり6回目からは輸血が必要な状態になりました。8回を終えたところで、ドクターからリスクの低下とこれ以上のダメージを回避したいとの理由で抗がん剤治療を終了することになりました。以来幸いなことに再発はなく、その後6回の手術により失った部分の再建をしました。

壮絶な闘病生活を息子はどんな気持ちで送っていたのか。私も必死で寄り添いながら、一方では責任ある仕事にしっかり向き合うことで、どうか自分を見失うことなく頑張れたように思います。

それから5年後に念願の開業ができるなどとても信じられないことではありますが、夢が実現できたのは闘病中に与えられた余るほどの時間のおかげだと息子は言います。ベッドの上でメニューや材料の配合をノートにびっしり書き出してはあれこれイメージを膨らませていたように記憶しています。

そんな荒波を乗り越えて起業した息子と、晴天の霹靂で毎日早朝から閉店までの長い時間を共にすることになった私。パン屋の店先はまさに出会いと学びの場です。恐縮ですが続きは次回号で書かせていただきます。

さて9月22日(日)11時から「第33回新潟いのちの電話チャリティーバザー」を新潟市総合福祉会館で開催いたします。みな様のご来場をお待ちしております。

(新潟いのちの電話後援会事務局長)

ある日の相談室より

毎月10日はフリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」の日、公衆電話からのお電話を2件、お受けしました。

30代くらいの男性は「この日を1か月待っているんです。お金がなく、月に1回、このフリーダイヤルでしか電話ができなくて」「公衆電話からでもフリーダイヤルはつながる、とにかく人の声が聴けて、話ができる。助かります」と、生活の苦しさ、仕事が不安定なことなど、早口で話してくれました。最後はほっとした様子で「また来月かけますね」と切れました。この日を毎日待っている、月に1回の大切な機会、つながってよかったと思いました。

もう1件は若い女性でした。細く消えそうな声でした。「フリーダイヤルは発信者番号非通知ではつながらないので、公衆電話からしかかけられない。私、嫌なんです、苦しいんです。私の電話番号がわかっては困るんです」嫌なんです、苦しいんですと繰り返しながら、電話は切れてしまいました。彼女の「自分の居場所を誰にも知られたくない」という気持ちが、痛いほど伝わりました。

どちらの電話も「大丈夫、つながっていますよ。あなたの声を聴かせていただくことができた今日は、私にとっても大切な機会でした」そう伝えたくくなりました。

(内容は、電話を基に構成し直したものです)

※公衆電話からのフリーダイヤルは、電話が終るとお金が戻ります。

また、発信者番号通知でかけても、いのちの電話には表示されません。

毎月10日(午前8時より翌日午前8時まで)は
フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」が実施されています。
電話番号 0120-783-556

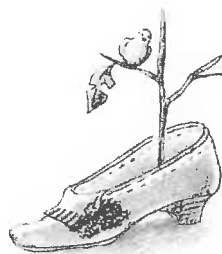
「聴くこと」の中に

谷川則子

日頃、カウンセリングの中で心がけていることがいくつかあるのですが、その中に『相手の言葉にならない思いも聴く』があります。言葉で語られる内容だけでなく、声のトーンや表情、しぐさなどに関心を向け、どんな内容の時にどんな風にお話しされているのか？ということに気を配るのです。そう聴くことで患者さん全体を理解していけるように努力しているのですが、それと同時に日常的な事としてサラリと語られたことにも関心を向ける工夫もしています。それは『人の行動ひとつひとつの中にその人のこれまでの経験や思いが詰まっている』という考え方を大切にしているからです。中でも『食』に関する話が出てきた時にはそのアンテナがピピッと働き、「～を料理した」「～を食べた」という話を聴くと「その料理はいつ、誰から習ったのだろうか?」「これまで誰とどんな風に食べてきたんだろう?」「今、誰のためにどんな思いで作っているんだろう?」「誰と、それとも一人で食べてるのかしら?」といったことが知りたくなります。タイミングが合えばその辺りを聴かせてもらうこともしばしばです。ご自分の『食』にまつわる体験をふり返ってみてください。そこには皆さんの家族とのあり方の『いろいろ』が詰まっていませんか？

先日、精神的な不調でしばらく家事ができずにいた女性が「先生、今年3年ぶりに梅干しを漬けることができました」と声を弾ませ教えてくれました。学生の頃に母親を亡くし、直接料理を習うことがないままご自分の家庭を持ち、自分が母親のようににはできないもどかしさを抱えながら、それでもいつかは…と頑張ってきた方です。母の味を思い出しながら作り続けてきた梅干しを、3年の小休止の後に作れた喜びの中には、改めて感じる母との確かな繋がり、自分の歩みというスパイスが加わった味への誇らしさ、今の家族がこの味を待っている喜びなど、たくさんの思いが詰まっていたことでしょう。「それはよかったですね」という返答の中に、そんな思いを込めて聴いています。

(臨床心理士)



お知らせ

会費納入ありがとうございました

お寄せいただいたご厚意に、あらためて感謝申し上げます。いのちの電話の活動をご理解いただき、温かいお気持ちに支えられ、電話相談を続けることができています。会費は、いのちの電話の運営や相談員の研修などに、大切に使用させていただきます。

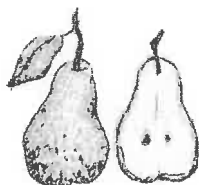
チャリティーバザー

(新潟いのちの電話後援会主催)

日時 9月22日(日) 11時～15時

会場 新潟市総合福祉会館 2階
多目的ホール

後援会の方々が中心になり、準備を進めてくださっています。90社を超える企業や団体、また個人の方々から善意のご寄付をたくさん頂戴しました。今年度は終了時間を1時間延長して15時までとし、ゆっくりとお買物をしていただけるようにしました。またタイムセールやオークションなど、より楽しんでいただけるよう工夫を凝らしています。皆さまのご来場をお待ちしております。



新潟いのちの電話 心の健康セミナー

今年度も開催いたします。ご来場をお待ちしております。

- 11月6日(水)13時30分～15時30分
会場 上越市文化会館
講師 史佳Fumiyoshi、高橋竹育
- 11月30日(土)13時30分～15時30分
会場 新潟市 だいしホール
「天上の音楽
～ハートケア・コンサート～」

新潟いのちの電話 市民公開講座

「心もからだも『冷え』が万病のもと
～川嶋流冷え取り術～」

日時 12月14日(土)15時～17時

会場 新潟市 だいしホール

講師 川嶋 朗先生

(東京有明医療大学 教授)

2019年9月10日発行

社会福祉法人 新潟いのちの電話

〒950-0994 新潟市中央区上所2-2-3 新潟ユニオンプラザ ハート館
事務局 TEL (025) 280-5677 FAX (025) 280-5677
ホームページアドレス <http://www.ni-denwa.jp>

9月の絵手紙



Sakurai Kouji